

# JID AWARD BIENNIAL 2014

JID 賞ビエンナーレ 2014 は、JID 賞の歴史上初めて、公式ウェブサイト上で公募と初期段階審査を行った。応募総数 122 点のうち、条件をクリアしていた 108 点を審査対象とし、ウェブ上に登録された資料に基づき第 1 次審査を、また、その通過作品について現地審査、現物審査を伴う第 2 次審査を行い、その通過作品についてさらに特別審査委員の参加を得た最終審査会にて審査した結果、大賞 1 点、インテリアスペースデザイン部門賞 3 点、インテリアプロダクトデザイン部門賞 2 点、学生部門賞 1 点、入選 7 点が出された。新設されたアイデア部門賞においては、残念ながら入賞・入選の該当作品がなかった。各段階の審査結果は、その都度、公式ウェブサイトにて発表されている。

## ■大賞 Grand Prix

### 扇屋旅館 扇屋カフェ (新潟県村上市)

大坪 輝史 (6D) / 安原 幹、日野雅司、栃澤麻利 (SALHAUS) / 泉井 保盛 (+I DESIGN)

撮影: 矢野 紀行



審査講評: 古びた村上駅前にあるビジネス旅館にカフェを加え宴会場を含めてフォームした空間。

次の時代につながるという想いから“改修”が選択され、重なる増改築により複雑に入り組み老朽化も激しかった建物を再構成し、中庭によって各要素をつないでいる。全体のカラーリングを統一し、庭園風中庭を通りに対して開放したこともあって、居心地の良い空間がかもしだされている。一気に現代風デザインに突進するのではなく、適度なリノベーションにより、地域とのつながりを活かすというやり方は、地方に残る古いビジネス旅館のこれからの可能性を示唆しているようだ。



## ■インテリアスペース部門賞 Interior Space Award

### 藤田歯科医院

川西 康之、栗田 祥弘、柳 辰太郎 (nextstations)



審査講評: 駅前ビルの一角、落ち着いた表情の暖簾をくぐると木の香りに包まれる。数多くの診察・治療ブースの存在がわかる開放的な空間なのに、歯科医院につきものの音も聞こえない。合板の仕切りや天井を柔らかに構成する幕面の波がリラックスさせてくれる。神経の行き届いたデザインに感心させられると同時に、広い待ち合い空間を活かしたイベント開催など、地域とのつながりを意識したインテリアデザインであることも高く評価したい。

## ■塩野義製薬 医薬研究センター SPRC 4

小椋 吉隆 (株式会社 竹中工務店)



審査講評: 数カ所に分散していた研究所を統合した施設である。ダブルスキンで構成されたファサードのルーバーモジュールの開口部から、内部空間の回廊へ外光がふんだんに入り込む。その中央に配置されたギャラリーにも天井から光がふりそそぐ、打ち合わせや休憩の場を包み込む。機能上は閉鎖的な施設でありながら、研究者達にとっては、常にリフレッシュできる明るい「KURASHI」の空間となっているようだ。

## ■Kamidana 「むく」

水野 憲司 (mizmiz design)



審査講評: 従来の神棚は残念ながら少しづつ姿を消しつつある。それは思想的な問題もあるだろうが、それ以上に、現代的な空間に対して最適なスペースがないとかデザイン的に不釣り合いになってしまうと感じられているからではないだろうか。この神棚では現代的解釈が詳細なところまでバランス良く配慮されている。伝統を現代に繋ぐことは今日的な課題とも言えるが、こういった作品の力に今後も期待したいと思う。

## ■「シキリの形」

青木 律典 (青木律典建築設計スタジオ)

撮影: 石田 篤



審査講評: 有効スペースを狭くしながらも、空間を深く巧く使う手法で広く感じさせるなど、仕切り方次第で、空間内のそれぞれの関係や距離感が、より生かされるということを実感させるデザインである。シンプルなダイニング、機能的なキッチン、ユニークなユーティリティ、二人用のワークスペースなど、細部にわたり考えられており、ローコストでありながら大変良く仕上げられており、今後のリノベーションデザインの方向性を感じさせる。

## ■インテリアプロダクト部門賞 Interior Product Award

### ミニマルな光のリング

小椋 吉隆、塚本 直子 (株式会社 竹中工務店)



審査講評: 金融街のシンボリック的存在であった銀行の古典的大空間の保存・再生にあたって、照明計画が重要な鍵の一つとなった。従来の白熱灯によるスポット照明の代わりに、大空間に対してのミニマルなリングの中に LED を組込む方式をとって照度向上をはかるとともに、天井へのアップライト機能や机上照度向上のための自動調光システムの導入や地震時の振幅低減対策にも配慮して、古典空間に負けない見事なインテリアプロダクトが生まれた。

## ■学生部門賞 Student Award

### 無限のひとかけ

富所 駿 (多摩美術大学)



審査講評: 久しぶりに学生らしい将来性を感じる作品に出会った気がした。未完成の感はあるが構造とフォルムの研究を進めることにより新鮮で美しいデザインが生まれる予感がする。第一次審査の段階でどうしても実物を見たい作品であったが、やはり椅子としては強度的に不安感があり、美しいフォルムを保つことが現段階では難しいが研究の余地を含んだ感性溢れる、そして今後が期待される作品であると言ってよいだろう。